

日本医学会分科会活動報告

公益財団法人日本眼科学会
理事長 大鹿哲郎

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

(公財) 日本眼科学会は日本医学会分科会の一員として、眼科研究の発展を目指した学術活動、また、国民に対する視機能の維持向上を目指した啓蒙活動を一貫して行ってきた。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- ・日本眼科学会総会ならびに日本臨床眼科学会を開催している。
- ・日本眼科学会雑誌を毎月発行、Japanese Journal of Ophthalmology を隔月発行している。
- ・網膜芽細胞腫の診断と治療の向上のため、網膜芽細胞腫の全国登録事業を行った。
- ・「糖尿病網膜症診療ガイドライン」「未熟児網膜症に対する抗 VEGF 療法の手引き」「白内障手術併用眼内ドレーン使用要件等基準 (第 2 版)」「斜視に対するボツリヌス療法に関するガイドライン」をはじめとした 27 の眼科関連のガイドライン・指針の作成を行った。
- ・無虹彩症、前眼部形成異常の診断基準を策定し、新たに指定難病の認定を得た。
- ・26 の関連学会の認定・更新事業を行い、眼科各専門分野の研究・診療の発展に貢献した。
- ・World Ophthalmology Congress において日本眼科学会による招待シンポジウム開催した。
- ・日本眼科学会総会において、American Academy of Ophthalmology との共同シンポジウムを開催した。

b. 当該領域における国際的な役割

国際眼科連合 (The International Council of Ophthalmology (ICO)) の一員として、国際的な眼科研究の発展、診療レベルの向上に貢献した。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- ・(公財) 日本アイバンク協会が行う角膜移植・強膜移植の普及事業を援助し、臓器移植の推進に貢献している。
- ・(公財) 失明予防協会が行う失明予防のための研究や事業を援助し、失明予防に貢献している。
- ・日本眼科学会総会、日本臨床眼科学会に合わせて、市民公開講演会を開催し、社会に貢献している。
- ・専門医の認定事業・資格更新・生涯教育事業を行い、眼科専門医の診療レベルの維持向上に努めている。

d. 学会運営上留意している点

- ・公益財団法人として眼科学の発展に貢献できるように努めている。
- ・公益財団法人に関連する法令の遵守に留意している。

Ⅱ. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

- ・日本学術会議に会員を出し、学術の振興に努めている。
- ・日本学術会議 臨床医学委員会感覚器分科会において、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会と連携した市民公開講座を毎年開催している。